

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 大隅地域振興局 農政普及課

課題名①		新規就農者の確保・育成				
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	6	1			
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか	4	3			
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	6	1			
	④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか	5	2			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5	2			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	4	3			
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか	5	2			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	3			
全体的な意見・提言等		・就農相談の時点で利点とリスクをしっかりとアドバイスして覚悟をもって就農するようにしてほしい, 基礎講座など育成にも力をいれてほしい。30年前に何もわからず就農した経験から, このような支援が充実していることはありがたい(土橋) ・30人程度の就農は多いと思う, これからもきめこまやかな指導をしてほしい(前田) ・体験ツアーの時間が短いのではないかと(中野)				

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：大隅地域振興局 農政普及課

課題名①		新規就農者の確保・育成				
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	8	0		・難しいが、具体の目標を示せば良い ・地域ニーズにあっている	具体目標とはいえないかもしれないが、現状程度の新規就農者数(30人)と営農定着率(97%)を目標にして取組を進める
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	7	1			
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	3	5		・市町は一般事務職員が多いので指導の際の連携は助かる。 ・連携した取組で成果があがっている	引き続き関係機関と連携した取組を進めたい
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3	5			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	4			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	0	8			
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	1	7			
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	5			
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	1	6	1		
全体的な意見・提言等		・体験ツアーは継続的に実施しないのか、市町(特に鹿屋市は移住サポートセンターがある)連携を強めたほうが良い、市町連携してツアー参加者の後フォローが必要、評価項目・視点に沿った評価がしにくい取組である(鹿屋市農政課) ・最重要課題ではあるが、就農者の生活が成り立っているか、借金漬けになっていないかが一番気になる(肝付町畜産課) ・農業者確保は大きな課題なので、取組を強化してほしい(JA鹿児島もつき) (対応等) ・来年度の計画には、市町と新規就農者確保に向けて連携した取組を進める活動を位置づけた。 ・新規就農者の生活が成り立つことは就農計画の前提なので、特に資金借入などは慎重に生活費も含めた長中期見通を考慮した指導に心がけたい。				

肝属地域の農業を担う人材の確保・育成

「新規就農者の確保・育成」

経営普及係

1

本日の発表目次

- 1 普及指導計画における位置づけ
- 2 新規就農者の現状
- 3 新規就農者の確保・育成に関する課題
- 4 新規就農者の確保の取組
- 5 新規就農者の育成の取組
- 6 取組の成果
- 7 今後の取組

2

1 普及指導計画における位置づけ

(1) 就農意向者への支援

就農相談対応, 就農準備支援, 学校連携

(2) 将来的な農業従事者の確保

体験ツアー

(3) 新規就農者の定着支援

基礎技術の習得支援, 経営開始5年間重点支援

(4) 重点支援対象者への支援

個別支援, 施設野菜部門

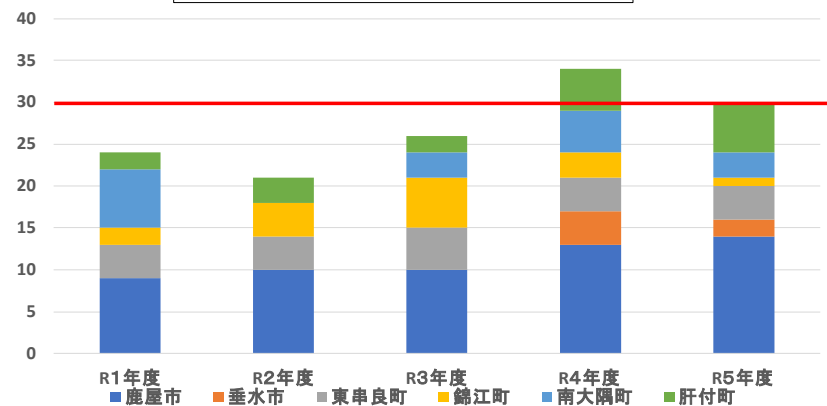
3

2 新規就農者の現状①

○ 毎年30人前後が就農している

※ 過去5年間平均で19人が認定新規就農者に認定

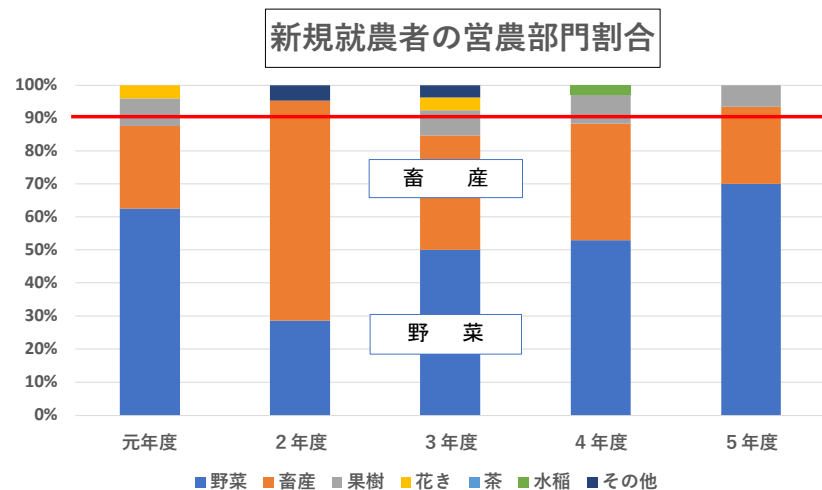
肝属地域の新規就農者数の推移



4

2 新規就農者の現状②

○ 野菜と畜産の部門の就農者が多い（約9割）



5

2 新規就農者の現状④

計画どおりに収益があがらず、資金繰りが悪化し、今後の経営継続が懸念される新規就農者がいる。

(原因)

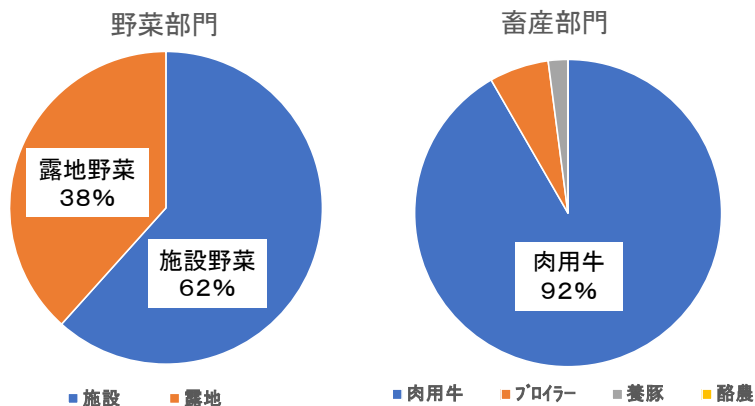
- ・ 基本技術・知識の習得不足
- ・ 就農準備不足(農業への認識不足)
- ・ 情勢変化の影響(資材高騰, 子牛価格低下など)

○ 資金償還計画の条件変更相談件数は31件
(令和4年4月～R6年12月)

7

2 新規就農者の現状③

野菜部門と畜産部門における内訳 (R1～5)



6

3 新規就農者の確保・育成に関する課題

- (1) 毎年、新規就農者を一定数確保する必要
- (2) 就農相談者・希望者への地域農業の現状や支援事業・制度等の情報提供や活用支援
- (3) 新規就農者の早期経営安定(営農定着)に必要な技術や知識の習得
- (4) 新規就農者が指導機関や指導農業士等に相談できるような環境を整える必要
- (5) 厳しい経営状況にある新規就農者の改善

8

4 新規就農者の確保の取組①

○ 令和5年度の相談・支援件数は31件

(1) 就農検討中の相談者への対応

- ・ 地域の農業の概要等の説明
- ・ 就農前の研修や必要な準備等の情報提供
- ・ 支援事業や支援制度等の紹介等

(2) 具体的な就農予定者への支援

- ・ 就農計画の作成支援
- ・ 資金や事業等の計画作成支援

9

【写真】 R6年度 鹿屋農高生先進農家研修
(南大隅町ピーマン農家:青年農業士)



11

4 新規就農者の確保の取組②

(1) 鹿屋農業高校との連携

- ・ 地域農業研修会の開催
- ・ 先進農家視察(3農家)

(2) 県立農業大学校との連携

- ・ 就農相談会対応
- ・ 農家留学研修への対応
- ・ 卒業後就農予定者への就農計画作成等支援

10

4 新規就農者の確保の取組③

(1) 体験ツアーの実施(R5)

- ・ 11月と2月に農業体験(露地・施設野菜, 畜産)や農泊等の2泊3日のツアーを実施

県内外から11人が参加(1人は管内就農を準備中)

(2) 体験ツアーの実施(R6)

- ・ 11月と12月と1月に農業体験(露地・施設野菜, 花き, 畜産)や観光等の1泊2日のツアーを実施

県内外から27人が参加

○ 参加者の満足度は高い(アンケート結果)

12

【写真】 農業体験中のツアー参加者
(R6年度第1回体験ツアー)



13

【写真】 農業基礎講座
(R6年度第1回 先輩農業者の講話)



15

5 新規就農者の育成の取組①

(1) 基礎的な技術・知識の習得支援

- ・ 農業基礎講座(4回開催)
先輩農業者の講話, 経営, 施肥, 病虫害防除,
牛飼養管理・飼料生産, 農作業安全等の講義
- ・ 農業簿記基礎(2日間)
農業簿記の基礎, パソコン簿記の講義,
- ・ 農業専門講座(各部門毎に開催)
野菜や畜産, 果樹など延べ16回開催(R6)

14

5 新規就農者の育成の取組②

(1) 指導農業士会による新規就農者巡回

支部毎に指導農業士と農業青年クラブ員, 女性農業経営士, 関係機関で, 就農1年目の新規就農者の施設やほ場を巡回訪問

【R6の実施状況】

北部: 10月 新規就農者 4人, 指導農業士 6人
東部: 9月 新規就農者17人, 指導農業士13人
南部: 10月 新規就農者 4人, 指導農業士10人

16

【写真】 指導農業士会の新規就農者巡回
(R6年度南部指導農業士会)



17

5 新規就農者の育成の取組④

(1) 重点支援(厳しい経営状況の改善)

- ・ 重点支援リストアップ(R6年19人)
- ・ 施設園芸, 畜産, 花きの個別重点支援

(2) 資金計画, 就農計画の修正指導

- ・ 資金償還計画変更, 資金繰り, 技術改善等支援

(3) 基本技術習得のための研修会(施設園芸)

- ・ ピーマン, キュウリの収量が目標にとどかない新規就農者向けに基本技術を学びなおす研修会を開催

19

5 新規就農者の育成の取組③

(1) 開始型資金や事業活用者の営農状況把握と巡回指導

- ・ 市町やJA, 農業委員会とともに巡回
(R6:5回実施)

(2) 事業や資金の活用支援

- ・ 青年等就農計画の作成支援
- ・ 青年等就農資金の借入支援(資金計画等)
日本政策金融公庫との資金面談(22件:R6年4~12月)
- ・ 経営発展支援事業など補助事業の活用支援

18

【写真】 ピーマン基本技術研修会(R6年度)



20

6 取組の成果

(1) 毎年一定数(30人程度)が就農

(2) 近年の営農定着率は高い

【肝属地域の営農定着状況(H30～R4)】

年度	就農者数	営農継続	定着率
H30	46	43	93.5%
R元	24	24	100.0%
R2	21	21	100.0%
R3	26	26	100.0%
R4	34	33	97.1%
肝属計	151	147	97.4%

おわり

○ 離農の理由は、農業への認識不足、病気

21

23

7 今後の取組

新規就農者の確保

- ・地域への就農者を呼び込むための取組
- ・就農予定者へ支援施策の情報提供

新規就農者の育成

- ・就農計画の実践支援
- ・就農5年以内に基礎的・専門的な技術知識習得

○ 関係機関、各農業者組織との連携が必要です

22